



# 野寺小だより

たんぽぽのように やさしく つよく のびのびと  
～ 家庭・地域とともに一人一人が輝く野寺小学校 ～

## 学校教育目標

- ・よく聴き、よく考える子
- ・心のゆたかな子
- ・からだのじょうぶな子

児童数 699名

7月号 令和4年7月1日

## 多様な考え方に会い、視野を広げる

校長 保戸田雅之

私が小学生の頃、友達の家遊びに行ったとき、玄関での靴の脱ぎ方が悪いと友達の母親から叱られたことがありました。学校の先生や身内から叱られたことはたくさんありますが、友達の家族に叱られる経験は、とてもショックでした。でも、それ以来、脱いだ靴はきちんとそろえないと気が済まないようになり、今でもその友達のお母さんには感謝しています。

最近の子供たちは、よその大人から教えられたり、叱られたりする機会が本当に少なくなったと思います。大人同士の社会でも、お互いの気分を害したくないからと、遠慮することが多いように思います。

人間関係の希薄さから、他人の痛み気付かなかったり、必要な拒絶ができなかつたりなど、いじめの要因も人間関係の弱さにあるのではないかという意見もあります。なぜこうなってしまったのかを考えると、異世代間の交流が少なくなったことが原因の一つではないかと思えます。

同世代の人としか話したり付き合ったりすることがないと、同じ価値観でしか物事を考えないようになります。そうならないように、学校では、縦割り班をつくって異学年交流に取り組んでいます。



野寺っ子タイム（縦割り班遊び）の様子

しかし、学校の中だけでは限界があります。小学生が幼稚園児と交流するとか、働いている人と交流するとか、地域の高齢者の方と交流するとか、外国人と交流するなど、全く違った環

境の中で育った人同士が関わることによって、違った価値観や考え方に気付き、視野を広げたり、自分の生き方を考えたりすることができるのではないかと思います。コミュニティ・スクール野寺小として、ご家庭や地域の協力を得ながら多様な考え方に会える機会をつくっていきたくです。子供たちの豊かな学びとなるアイデアがありましたらぜひお聞かせください。

あと少しで長い夏休みに入ります。ここ数年コロナの影響で、思い切り体を動かす機会や、体験的に学ぶ機会が少ない子供たち。家庭や地域、あるいは旅行先などで、豊かな経験を積んで、充実した日々を送ってほしいと思います。楽しい夏休みをお過ごしください。

## 「田んぼの先生へ」

田んぼの先生。5年生が田んぼのペンキょうをするんですね。田んぼのことがいっぱい知りたいです。



2年生の男の子が、稲作の指導をしてくださっている長谷川博正さんに宛てたお手紙です。一生懸命描いた絵と手紙、また、2年生から稲作に興味をもってくださっていることが本当にうれしいと、長谷川さんが私に教えてくださいました。

「野寺田んぼ」も7年目を迎えました。野寺小の自慢の一つとして、受け継がれていけるといいなと思います。



R4. 6. 24 現在の稲の様子